

英語による英語の授業への試み

茨城県立太田第一高等学校教諭 塚田歩



はじめに

平成 25 年度から始まる「新学習指導要領」に対応する形で、昨年 3 月、本校の新 1 年生担当で授業の改善を検討した。英語で授業を行うために、訳読中心の授業から脱却し、授業の中でいかにして生徒が英語で理解し、自分の考えを英語で表現する機会を増やすことができるかということを探索していた。そこで私たちが出した結論は、まずは「教科書の内容理解」を目標にすることであった。英語での授業への試みそのものが教師にとっても生徒にとっても初めてという状況の中で、教科書の内容理解があいまいなままで表現の能力を求めすぎると、お互いに不安になるであろうと考えたからである。そこでまず各レッスンのパートごとにワークシートを作成した。このワークシートがあることによって、教師にとって英語での授業の進め方が明確になるだけでなく、生徒たちにとっても次にどんな活動をすればよいのかといったことが分かりやすくなり、さらに内容理解の上でもワークシートに書かれてあるものを読んで確認することができることで生徒の手助けになると考えた。

実際の授業展開

具体的に NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I の LESSON 10 SOSEKI IN LONDON Part 3 のワークシートを使って授業の流れを説明する。私たちは 1 つのパートを 2 時間ぐらいで授業を進めている(1 レッスン 4 パートだと、8 時間程度で終わらせる)。

1 時間目

① Introduction (10 分)

Part 3 で取り扱う内容と多少関係のあるトピックについて、生徒は short essay を書く。Part 3 では夏目漱石がロンドンで下宿暮らしをする様子が書かれていたので、トピックとして「今度あなたはひとり暮らしをすることになりました。部屋を決めるときにあなたが重要視するポイントを 3 つ挙げ、その理由も書きなさい。」というものにした。書き終わったら、ペアになってお互いのエッセーを紹介しあう。

② New words (5 分)

発音、アクセントに注意して新出語を教師 (CD) に続いて読む。この活動は、次の③の活動につながる。

③ Listening 1 (5 分)

教科書を閉じた状態で、本文を聞きながら新出語を聞き取れたら机を 2 回叩くという活動を行う。このことにより、教科書の本文を聞くときに注意するポイントを明確にする。

④ Listening 2 (5 分)

教科書を閉じた状態で、本文を聞きながらワークシートの設問に答える。この段階では生徒はまったく内容を把握できていないので、この設問は内容理解を問うというより、キーワードが聞いているか、年号や数字など聞くことができているか、ということに焦点を当てている。

⑤ Reading 1 (25 分)

教科書を見ながらワークシートの「サマリーチャート」を埋めていく。生徒からすれば分散されているように思われる教科書の情報を、このチャートを使っ

て整理する。生徒はこの活動で本文を初見するので、チャートの設問を作るときには、多少表現は変えるにしても答えを教科書からそのまま抜き出せるような形にしている。本校は生徒の学力の幅が広いので、こうした「抜き出し」の形をとることによって、まずは全員が参加できるようにしている。同時に能力の高い生徒にも対応できる部分として、自分で考えて答えられる余地を残しておく。このパートでは夏目漱石と大家さん (Landlady) の会話を入れさせる部分である。多くの生徒は教科書からそのまま抜き出したり、ワークシートが会話の形になっているので主語を1人称に変えて書いたりする。

Landlady: I decided to move to a different area and open a new boarding house.

Soseki: I don't want to go with you because I am not at all fond of you. (生徒原文)

ただし中には教科書の内容を踏まえた上で、発展させた内容を自分で考えて書く生徒もいる。

Landlady: The rents of my boarding house are very cheap. I want to get more rents. So I decided to move to a different area and open a new boarding house. There are many places of amusement.

Soseki: Really? I want to go with you, but I can't. My purpose of coming to London is not to play. (生徒原文)

生徒がサマリーチャートに答えを入れた後で答え合わせをする際に、教師が内容について英語で説明を

加えたり、教科書の内容をやさしい単語を使って言い直したりする。

2 時間目

6 Reading 2 (10 分)

パラグラフごとの英問に対する答えを英語で書く。4つのパラグラフのうち3つについては教師があらかじめ質問文を作っておくが、1つのパラグラフについては生徒が自分で質問文と答えを作る。答え合わせをした後で、ペアになって口頭でこの英問英答を行う。答える側の生徒はワークシートを見ないで答える。

ここで1問だけ生徒のオリジナル問題にすることで、ペアでの活動に即興性の要素を加えてい

Lesson10 Part3 Worksheet

①Introduction :

②New words : Check the new words.

③Listening 1 : Listen to the CD, and if you catch the new words, tap your desk two times.

④Listening 2 : Listen to the CD and answer the questions below.

Q 1 How long did he stay in Britain? Q 2 : Didn't Soseki like Kate Brett?


A 1 For () years. A 2 : (Yes, he did./ No, he didn't.)

Q 3 What kind of person was Ikeda Kikunae? Q 4 Where did Soseki put an ad?

A 3 He was (a scientist/ an artist) and a very (bright/ quiet) person. A 4 He put an ad in the ().

⑤Reading 1 : Read the textbook and fill in the blank.

Para1~2 (p135L1~p135L12) topic "Soseki's boarding houses"

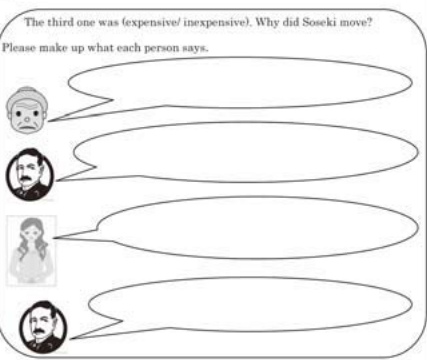


He lived in () different boarding houses.


The third one was (expensive/ inexpensive). Why did Soseki move?

He stayed at the first two for only () because ().

Please make up what each person says.



Para3~4 (p135L13~p136L6) topic "Soseki's ad"



In the fourth boarding house, Soseki became friends with ().

Please explain about him.

A () is () a boarding house with an English family with ().

A () and convenient flat in (N:), (N.W:) or (S.W:) of London is ().

る。理想としては4問とも生徒のオリジナルにすることもかもしれないが、「すべての生徒」にとっては難しすぎるし、生徒が作るオリジナル質問の英文の正確さに問題が出てしまい、「良質なインプット」が保証できないということも考えられるため、このような形にしている。

⑦ Summary writing (5分)

サマリーの穴埋めをして、解答をする。⑤、⑥、そしてこの⑦の活動で生徒は3回本文を読むことにな

る。ほとんどの生徒がこのサマリーの穴埋めの活動でここまでの内容理解に対するもやもやが少し晴れるようである。

⑧ What's the title of this part? (5分)

このパートのタイトルを自分で考える。難しければいちばん重要だと思うセンテンスを抜き出してもよい。

⑨ Reading aloud (15分)

本文の音読をした後で、教師とのシャドウイング、ペアでのシャドウイングを行う。ある程度の内容理解が終わった段階で音読活動を行う。

⑩ Summary telling (Explanation about part 3) (15分)

このパートのサマリーを作ってパートナーに紹介する。その際、レベルに応じて活動を選ぶことができる。

レベル1: ⑦のサマリーを読み上げることができる。

レベル2: それぞれのパラグラフからキーセンテンスを抜き出して、それをつなげて読むことができる。

レベル3: それぞれのパラグラフからキーワードをいくつか抜き出して、それを使って文章を再構築して読むことができる。

そしてそれぞれのレベルに応じてA～Dまでの自己評価をする。

⑥ Reading 2 : Questions about part 3

Questions about part 3

Para 1: Why did Soseki leave the first two boarding houses?
 ---Because ().

Para 2: Make your original question and answer!!

Para 3: Why did Soseki want to search for a better boarding house?
 ---Because ().

Para 4: Where did Soseki want to live?
 --- ().

⑦ Summary writing : This is the summary of part 3. Choose the correct words from the word bank below.

cheap / convenient / boarding houses / weeks / enjoyed / expensive / was fond of

Soseki lived in five different (①) during his two years in London. He stayed only a few (②) in the first two. The third one was (③), but the landlady decided to move. Soseki moved as well because he (④) the landlady's sister.

At this boarding house he met Ikeda Kikunae. Soseki (⑤) Ikeda's company, but after a few months, Ikeda moved out. Soseki then put an ad in the paper to find a new boarding house with a quiet and (⑥) location.

⑧ What's the title of this part?

⑨ Reading aloud : (1) Repeat after the teacher. (2) Do shadowing with your teacher. (3) Do shadowing with your partner.

⑩ Explanation about part 3 : Explain part 3 to your partner.

Level 1 : Read and look up the summary writing of ⑦.

Level 2 : Pick up the key sentences in each paragraph and read and look up the sentences.

Level 3 : Explain part 3 using the key words.

Keywords

Para 1
 Para 2
 Para 3
 Para 4

Your level is (1 / 2 / 3)

※ When you listen to your partner, you evaluate your partner's speech.

A レベル3を選び、キーワードを自分なりに使って全てのパラグラフについて伝えることができた

B レベル3を選び、キーワードを自分なりに使っていくつかのパラグラフについて、伝えることができた

C レベル2を選び、リード&ルックアップを意識しながら、伝えることができた

D レベル1を選び、リード&ルックアップを意識しながら、伝えることができた

Your evaluation is (A / B / C / D)

- A レベル3を選び、キーワードを自分なりに使って全てのパラグラフについて伝えることができた。
- B レベル3を選び、キーワードを自分なりに使っているいくつかのパラグラフについて、伝えることができた。レベル2を選び、リード&ルックアップを意識しながら、伝えることができた。
- C レベル2を選び、ワークシートを見ながら、伝えることができた。レベル1を選び、リード&ルックアップを意識しながら、伝えることができた。
- D レベル1を選び、相手に伝えることができた。

このようにそれぞれの活動に対して生徒に自己評価をさせている。1つ1つの活動に対して教師がすべて評価することは不可能である。そこで「自己評価表」で生徒に形成的評価をさせている。

おわりに

昨年度、本校の1年生で始めた英語での授業を今年度も継続して2年生で行っている。さらに今年度の1年生もワークシートを作って英語での授業に取り組んでいる。実際に私自身1年間やってみて、英語での授業を行おうとすると多くの課題があるということが分かった。例えば①予習はどのようにさせるか、②定期テストはどんな問題を作るか、③文法の指導はどうか、④日々の授業での活動をどのような視点で評価するか、⑤ワークシートを作る際に「内容理解」と「表現力・思考力の育成」をどのようなバランスにするか、などなど。ちなみに①予習については「予習用ワークシート」を別に作って、教師が新出語を簡単な英語で書き換えたものを提示しておいて、意味を日本語で調べさせておく、といった課題を出している。②テストについては訳読問題は一切出さずに、ふだん授業で行っているような内容理解や英問英答やサマリーの穴埋めといった問題を作っている。③文法についてはどうしても必要なものだけ、そのレッスン終了時に日本語で説明する。④⑤については現在も課題のみである。

私は教員になって今年で20年目を迎えるが、英語での授業を始めてまだ2年目である。英語での授業をやったときの「成果」ということはまだまだ分からないが、少なくとも次の2つのことは自信を持って言える。というかこの2つのことがあるから、英語での授業に日々悩み、苦しみながらもやり続けられるのだと思う。

1つ目は「同僚職員とのチームワーク」である。英語での授業の取り組み以前はひとりひとりが「職人」として訳読の授業を行っていた。しかし、現在では授業が終わるたびに、お互いに授業についての反省やよかった点などを共有したり、活動を実際にやってみての改善点などを話し合ったりする機会が格段に増えた。「こんなふうに英語で説明したらうまくいったよ」「全然伝わらなかったよ」というように、教員同士の「ああでもない」「こうでもない」の時間が増えた。こうした職員間の雰囲気が生徒たちにも伝わっていると信じたい。

そして2つ目は「定期テストだけでは計れない生徒の意欲」を引き出すことができる可能性があるということである。こうした生徒がひとりでもいてくれるということを感じて、これからも悩み続けていきたい。

～ LESSON 7 Part 1 授業用ワークシートより～

Please write a short essay.

“What do you want to be, or what do you want to do, in the future?”

— I want to be an English teacher. I want to become a teacher like you! You teach me English very hard. I like English now. When I was a junior high school student, I didn't like English. Thanks to you, I like English. It is fun for me to speak English in a class. I am looking forward to English classes.

(生徒原文)